

情報公開用文書（市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（他の研究機関への既存試料・情報の提供用）

西暦 2018 年 10 月 31 日作成

| | |
|------------------------|---|
| 研究課題名 | 卵巣奇形腫を伴う抗NMDA受容体抗体脳炎における卵巣奇形腫の手術時期および術式と脳炎の短期的転帰との関連をみる調査 |
| 研究の対象 | 2007年1月1日～2017年12月31日までに間に、卵巣奇形腫を伴う抗NMDA受容体抗体脳炎の治療のために入院し、卵巣奇形腫の治療を受けた方 |
| 研究目的 ・方法 | <p>若年女性にみられることの多い抗NMDA抗体脳炎は、NMDA受容体抗体に自己抗体ができることによる急性脳炎で、卵巣奇形腫との関連が指摘されています。卵巣奇形腫を合併する場合には、発症早期に卵巣奇形腫に対する手術を行うことで回復が早く見込めるのではないかとされています。しかし、卵巣奇形腫の手術には、開腹手術や腹腔鏡による方法、卵巣全体あるいは奇形腫だけを摘出する方法がありますが、どのような手術方法が症状改善に影響するか、はっきりとはわかっていません。脳炎発症から卵巣奇形腫の手術に至った時期や手術の方法によって、短期的に脳炎の症状改善に差が見られたかどうかを後ろ向きに調査し検討することで、卵巣奇形腫に対する手術方法の治療指針を作成していくことを目的としています。</p> <p>診療録をもとに患者ごとに診断された方法、抗NMDAR脳炎の症状の程度、卵巣奇形腫の手術時期、手術の方法、術後の症状の改善度合いなどから、手術の時期や方法によって脳炎の症状改善に差があるかを検討します。なお、調査では個人が特定されるような情報は治療した施設以外ではわからないように十分に配慮します。</p> |
| 研究期間 | 西暦 2018 年 12 月 18 日 ～ 西暦 2020 年 3 月 31 日 |
| 研究に用いる 試料・情報の 種類 | <p>診療録から以下の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗NMDAR抗体脳炎に関する項目：脳炎発症時の年齢、抗体陽性となった検査材料、抗体検査の種類、脳炎の治療、発症後から脳炎の確定診断までの期間 ・卵巣奇形腫に関する項目：発症後奇形腫の手術までの期間、内科的治療内容、手術の目的、奇形腫手術時の年齢、妊娠回数、脳炎発症時の妊娠の有無、妊娠週数、妊娠の転帰、奇形腫発生部位、嚢腫の数、嚢腫の最大径、奇形腫の組織型（良悪性）、神経成分の有無 ・卵巣奇形腫の手術に関する項目：手術時のPS、術前ICU管理の有無、手術時意識レベル、手術時の呼吸状態、手術時の痙攣・異常行動、手術時の精神症状、手術時のその他の症状、卵巣奇形腫に対する術式（開腹・腹腔鏡・片側・両側・嚢腫核出術・卵巣／付属器切除・両側性の場合の術式・その他） |

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 婦人科 （研究責任者）古賀絵理

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-231-1846